食で支える、これからの日本

日本の食料安全保障 － 5つの主要課題

食べられる当たり前を、これからも。いま、向き合うべき現実があります。

1 食料の海外依存

- カロリーベースの食料自給率は **38%**（2023年度）
- 小麦・大豆・とうもろこしなど主要穀物の多くを輸入に依存

▶ **国際情勢や輸出規制で供給が不安定化するリスク**

2 農業の担い手不足・生産基盤の脆弱化

- 基幹的農業従事者の平均年齢は **68.4歳**（2023年）
- 農地の減少・耕作放棄地の拡大

▶ **生産力の維持・向上が難しく、国内供給力が低下するおそれ**

3 国際市場の不安定化

- 気候変動による異常気象で、世界的に食料生産が不安定化
- 地政学リスク（紛争・貿易制限など）により、価格の高騰・供給途絶の可能性

▶ **輸入に依存する日本は世界の影響を強く受ける**

4 食料価格の上昇と家計への影響

- 国際的な食料価格は近年高止まり
- 輸入コストや円安の影響で、国内の食品価格も上昇し、家計の負担が増大

▶ **安定的に食を確保するためのコスト増が継続する可能性**

5 持続可能性との両立

- 環境負荷の低減や気候変動への対応が不可欠
- 生物多様性の保全や、食料システム全体のサステナビリティ確保が求められる

▶ **将来世代にわたり食を支える仕組みづくりが必要**

だから今、

食料を「安定的に・持続的に・生活者に届ける」ための戦略的な取り組みが求められています。

Copyright © 2026 Japan Processed Foods Wholesalers Association All Rights Reserved.

食でつながる、持続可能な未来へ

日本の食のサプライチェーンの現状と主な課題

― 食を安定的に、持続的に、生活者へ届けるために ―

食の安定が、
日本の未来を支える。

サプライチェーンの流れ

生産（農業・畜産・水産）	調達（国内・海外）	加工・製造	物流	販売・流通（小売・外食・中食・業務用）	生活者
米・野菜・果物・畜産物・水産物 など	国内外からの安定調達	食品メーカーによる加工・製造	全国328拠点の高効率な物流	スーパー・コンビニ・飲食店・食品卸 など	安全・安心で豊かな食生活

主な課題

生産基盤の脆弱化
- 農業従事者の高齢化・後継者不足
- 耕作放棄地の増加
- 気候変動による収量・品質の不安定化

食料の海外依存
- カロリーベースの食料自給率は **38%**（2023年度）
- 国際情勢による輸入の不安定化
- 為替変動・輸入コストの上昇

供給力・生産コストの上昇
- 原材料・エネルギー・人件費の高騰
- 中小食品メーカーの収益圧迫
- 食の多様化への対応の遅れ

物流の持続可能性
- ドライバー不足（2024年問題）
- 物流コストの上昇
- 冷凍・冷蔵など温度管理の高度化
- 災害時の物流途絶リスク

販売構造の変化
- 人口減少による国内需要の縮小
- 消費者ニーズの多様化（健康・簡便・サステナブル）
- 小売・外食の人手不足
- 食品ロスの発生（年間約472万トン：2022年度）

持続可能な食の未来
- 環境負荷の低減
- 食の安全・安心の確保
- 健康で豊かな食生活の実現
- 次世代に向けた食文化の継承

解決の方向性

生産力の強化
スマート農業・水産業の推進、担い手確保、国内生産の拡大

調達の多角化・安定化
輸入先の分散、戦略的備蓄、国際連携の強化

サプライチェーンのレジリエンス強化
デジタル化・標準化・共同物流、災害対策の高度化

食の価値を未来へ
食品ロス削減、環境対応、食育、和食文化の継承

だから今、

食を「安定的に・持続的に・生活者に届ける」ための社会全体での取り組みが求められています。

日本の食が、
人をつなぎ、未来をつくる。

Copyright © 2026 Japan Processed Foods Wholesalers Association　All Rights Reserved.